

元ふれあいの里奥出雲公園における鳥類 — 2020年度の調査記録 —

星野由美子*

A Observation Record of Wild Bird in the Fureainosato-Okuizumo Park at Shimane Prefecture — Survey record for 2020 —

Yumiko Hoshino

1. はじめに

「ふれあいの里奥出雲公園」は、鳥根県中部に位置する県有地である。同公園は2019年から閉園となっており、現在は、関係者以外は立ち入ることができない。園内およびその周辺は中山間地特有の山と谷が入り組んだ地形となっており、広い夏緑広葉樹の二次林にスギ *Cryptomeria japonica*、ヒノキ *Chamaecyparis obtusa* などの植林地がモザイク状に混在する混交林となっている。

同公園では、繁殖期を中心に公園で生息する鳥類相を把握するとともに、当地で繁殖している可能性がある鳥類の確認を目的として、2008年から現在まで鳥類全般の生息調査を実施している。生息している鳥類についての調査結果は、2008年から2012年までの5カ年の鳥類相を報告した(星野ほか, 2013)が、その後も調査を継続しており、本年は初記録の種も確認された。本報告では、調査を実施した2020年4~12月に確認された鳥類種を報告する。

2. 調査地の概要

ふれあいの里奥出雲公園(以下、公園とする)は、鳥根県中部の雲南市掛合町波多にあり(図1)、面積約180 haの森林を中心とした標高350~615 mの起伏に富んだ公園である。

森林構成は、コナラ *Quercus serrata* やアベマキ

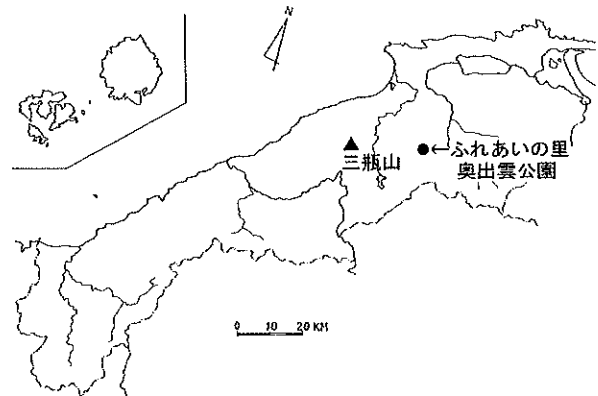


図1 ふれあいの里奥出雲公園位置図

Quercus variabilis を中心とした夏緑広葉樹林にアカマツ *Pinus densiflora* やスギ、ヒノキの針葉樹がモザイク状に混在している。また公園内を南から北西にほぼ縦断する形で流れる河川があり、上流にあたる公園入り口付近には約80 m²の貯水池がある。この池の下流側には東西の斜面から幾筋もの谷が落ち込み、水量が豊富な渓谷となって神戸川へと合流している。

公園に最も近い気象観測地点であり標高がほぼ同じ「赤名」の気象データによると、この付近の年平均気温は11.5℃、年間降水量は2023.8mmである。本年の最高気温は8月に31.2℃、最低気温は2月と12月に-1.7℃を記録した。最大降水量は6月に130.5mmが記録された。

* 鳥根県立三瓶自然館, 〒694-0003 鳥根県大田市三瓶町多根 1121-8

The Shimane Nature Museum of Mt. Sanbe (Sahimel), 1121-8 Tane, Sanbe-cho, Ohda, Shimane, 694-0003, Japan

3. 方 法

調査はラインセンサス法とスポットセンサス法による基礎調査と鳥類を捕獲して行う標識調査、ならびに標識調査の際に平行して終日の観察鳥類を記録する重点調査の3通りで実施した。

調査の対象とした期間は、基礎調査を4～12月、標識調査と重点調査を5～8月に実施した。1～3月は積雪のために入園が困難となるため調査期間からは外した。

(1) 基礎調査

4～12月の8:30-12:00までの間に、1カ月に1回の頻度で約2km/hの速度で調査ルート(図2)を歩きながら、双眼鏡を用いた目視による観察と鳴き声で確認したすべての種類を記録した。またルートの途中には定点を定めて15分間に確認した種類を記録するスポッ

トセンサスも行った。定点4は、本年は倒木のため到達できなかったため記録はない。

(2) 標識調査

標識調査は、5～8月の間の1ヶ月に1回、それぞれ連続した4日間で行った。捕獲には、基本的に30または36メッシュのかすみ網(高さ2.5m、長さ12m)を用い、状況によっては61メッシュや長さ6mの網を用いることもあった。網は、公園内の森林内部、林縁部、溪流沿いの鳥が通過しそうな場所を選び、20枚程度の使用を基本として2～3カ所に設置した。なお、本標識調査においては鳥類の捕獲や取り扱いに高度な技術をもつ鳥類標識調査員を中心とした特別チームを編成した。

(3) 重点調査

重点調査は、標識調査の際に併せて実施し、標識作

ふれあいの里奥出雲公園園内図

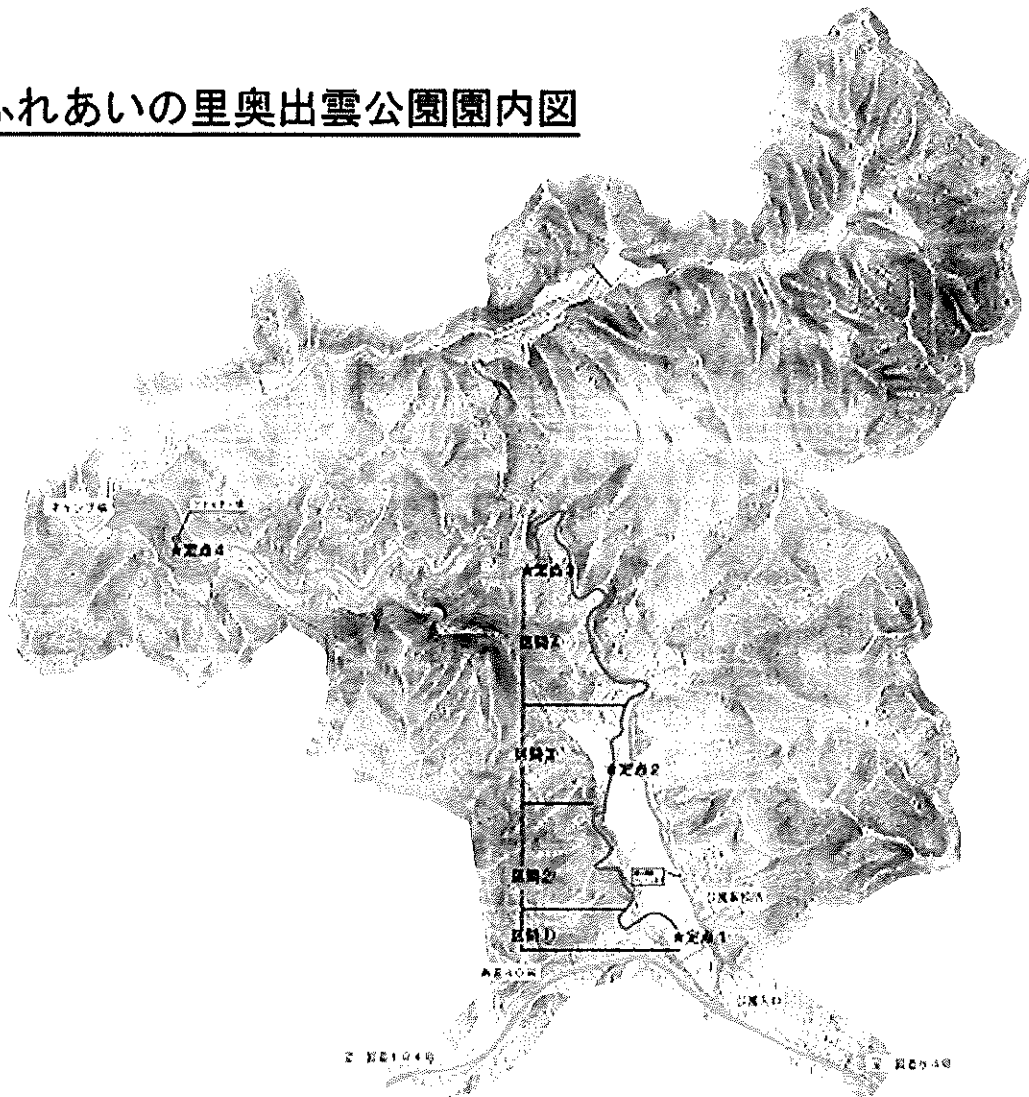


図2 ふれあいの里奥出雲公園園内図

業場所やかすみ網設置場所付近、またその間のルート上で、調査時間内（主に日の出1時間前から日没後1時間程度）に目視や鳴き声で確認されたすべての種を記録した。

それぞれ種名の表記は、日本鳥類目録改訂第7版（日本鳥学会、2012）に従った。

4. 結 果

(1) 確認種

調査において確認された全ての鳥類は31科72種であった（表1）。確認種リストには、環境省（2020）および鳥根県（2014）のレッドリストのカテゴリーならびに鳥根県における渡り区分（日本野鳥の会鳥根県支部、1997）を記載した。

渡り区分において、もっとも多く確認されたのは留鳥が36種（全確認種における割合は47.2%）で、次いで夏鳥21種（同29.2%）、冬鳥12種（同15.3%）、旅鳥2種（同2.8%）であった。なお、主に冬鳥で、一部留鳥とされているもののうち、オシドリ *Aix galericulata*、ツミ *Accipiter gularis* については、公園内で繁殖期も確認されているため、鳥類相調査（星野ら、2013）に合わせて渡り区分としては留鳥に含めた。さらに、ハクセキレイ *Motacilla alba* は現在、鳥根県内全域で繁殖が確認されていることから留鳥とした。

今回の調査における確認種を調査方法別に見ると（表1）、基礎調査では22科50種（全確認種における割合は69.4%）、重点調査では29科57種（同79.2%）を確認した。目視等で確認する2つの調査を合わせると30科69種となり確認種全体の95.8%となった。また、標識調査では、18科31種（同43.1%）を確認した。このうち標識調査のみで確認された種は、オオコノハズク *Otus lempiji*、ミソサザイ *Troglodytes troglodytes*、マミジロ *Zoothera sibirica* であった。

これまでの調査では36科91種が報告されており（星野ら、2013）、今回の調査ではそのうちの31科69種が確認された。これまでのリストに無い確認種は3科3種でサギ科のミゾゴイ *Gorsachius goisagi* とヒタキ科のコマドリ *Luscinia akahige*、アトリ科のベニマシコ *Uragus sibiricus* であった。

(2) 新しく確認された種の出現状況

①ミゾゴイ

本種は、5、6、7月の重点調査において鳴き声と姿が確認された。鳴き声は5月18日の夜間および5月19日早朝、6月5日夜間、6月6日早朝と夜間、6月8日



図3 ミゾゴイの幼鳥(撮影：古園由香)

早朝に確認された。姿は7月24,25,26の昼に樹間で休息する姿が観察された。また、7月25日には幼鳥の姿も観察（図3）されており、周辺で繁殖した可能性が示唆された。

②コマドリ

本種は、5月に実施した重点調査において鳴き声が確認された。調査エリアから離れた尾根や谷からさえずる声を確認したものであり、5月16日のみの確認であったため、通過個体である可能性が考えられた。

③ベニマシコ

本種は11月に実施した基礎調査において鳴き声と姿が確認された。ため池のほとりのヨシや草原のススキの間にオスとメスの姿を3羽確認した。

(3) 確認された希少種

前回の報告では、各調査において環境省や鳥根県のレッドデータ（以下、RDとする）種が10科18種確認された（星野、2013）が、本年の調査では10科16種であった（表1）。今回新たに確認されたRD種は、ミゾゴイの1種であった。また、これまで確認されていたものの、今回の調査で確認されなかったRD種はミサゴ *Pandion haliaetus*、オオタカ *Accipiter gentilis*、ヨタカ *Caprimulgus indicus*、ヤマセミ *Megaceryle lugubris*、

表1 ふれあいの里出雲公園で確認された鳥類

目名	科名	和名	学名	4月		5月		6月		7月		8月		9月		10月		11月		12月		合計	
				15日	16-19日	21日	16-19日	24日	5-8日	20日	24-27日	30日	5-8日	20日	24-27日	30日	5-8日	20日	24-27日	30日	5-8日		20日
キツキ目	キツキ科	ヤマドリ	<i>Syrnoides seomerrugani</i>			1																4	
		オシドリ	<i>Anas platyrhynchos</i>	繁殖地保護			1																5
カモ目	カモ科	マガモ	<i>Anas platyrhynchos</i>																				0
		アホウドリ	<i>Ardeotis persiana</i>	繁殖地保護			2																2
ハト目	ハト科	アホウドリ	<i>Ardeotis persiana</i>			2																	2
		アホウドリ	<i>Ardeotis persiana</i>	繁殖地保護			2																2
ペリカン目	ペリカン科	アホウドリ	<i>Ardeotis persiana</i>			2																	2
		アホウドリ	<i>Ardeotis persiana</i>	繁殖地保護			2																2
カウボウ目	カウボウ科	アホウドリ	<i>Ardeotis persiana</i>			2																	2
		アホウドリ	<i>Ardeotis persiana</i>	繁殖地保護			2																2
タカ目	タカ科	アホウドリ	<i>Ardeotis persiana</i>			2																	2
		アホウドリ	<i>Ardeotis persiana</i>	繁殖地保護			2																2
フクロウ目	フクロウ科	アホウドリ	<i>Ardeotis persiana</i>			2																	2
		アホウドリ	<i>Ardeotis persiana</i>	繁殖地保護			2																2
アツボウ目	アツボウ科	アホウドリ	<i>Ardeotis persiana</i>			2																	2
		アホウドリ	<i>Ardeotis persiana</i>	繁殖地保護			2																2
キツキ目	キツキ科	アホウドリ	<i>Ardeotis persiana</i>			2																	2
		アホウドリ	<i>Ardeotis persiana</i>	繁殖地保護			2																2
スズメ目	スズメ科	アホウドリ	<i>Ardeotis persiana</i>			2																	2
		アホウドリ	<i>Ardeotis persiana</i>	繁殖地保護			2																2

印 84
又 21
々 11
々(一部) 9
款 2

ノビタキ *Saxicola torquatus* の5種であった。

さらに、2013年の報告以降、国、鳥根県ともにレッドリストは改訂されており、鳥根県のリストに改定によって加えられた種として、コルリ *Luscinia cyane*、コサメビタキ *Muscicapa dauurica* が確認された。環境省のレッドリストは出現種の中では変更はなかった。確認された種類のうち、改定によりリストから除外されたものは無かった。

そのうち本年の調査によって確認された13種の状況は次のようであった。

①オシドリ *Aix galericulata* 【国：情報不足、県：準絶滅危惧】

本種は調査期間の4～8月および11月に調査地内の池で目視により確認した。多いときには複数羽の雌雄が池に張り出した樹木の枝の陰で休息していた。本種はコナラなどのドングリを好んで通年で食べ、溪流や水辺近くの樹洞などに営巣する(叶内, 2020)。今回は、本種の幼鳥の確認はしていないが樹林の構成種からは繁殖している可能性が考えられる。

②ミゾゴイ *Gorsachius gousagi* 【国：絶滅危惧Ⅱ類、県：絶滅危惧Ⅱ類】

前項のとおり

③ハチクマ *Pernis ptilorhynchus* 【国：準絶滅危惧、県：絶滅危惧Ⅰ類】

5月18日および6月6日に重点調査において上空を飛翔する1羽を確認した。

④ツミ *Accipiter gularis* 【県：情報不足】

5月18日に標識調査において成鳥オス1羽が捕獲された。本種は過去にも複数回、標識調査で捕獲されたほか、2008年の調査中に造巣行動が観察されたものの繁殖の確認には至らなかった(星野ほか, 2010)。

⑤サシバ *Butastur indicus* 【国：絶滅危惧Ⅱ類、県：絶滅危惧Ⅰ類】

5～7月の基礎調査、重点調査で観察された。また調査地内で営巣木が確認された。6月24日の基礎調査では、幼鳥と思われる個体を含む5羽が営巣木周辺で飛翔する姿が確認され、巣立ちをしたと考えられた。

⑥クマタカ *Nisaetus nipalensis* 【国：絶滅危惧ⅠB類、県：絶滅危惧Ⅰ類】

6、8月の重点調査、10月の基礎調査で上空を飛翔する各1羽を観察した。

⑦オオコノハズク *Otus lempiji* 【県：絶滅危惧Ⅱ類】

本種はわかりやすいさえずりがなく、生息の確認が難しい種類であるが、5月17日、5月18日、6月7日の標識調査において成鳥各1羽が捕獲された。5月18日に捕獲された個体は、前年の2019年8月24日に同公園内で幼鳥として足環を装着した再捕獲個体であった。

⑧アオバズク *Ninox scutulata* 【県：準絶滅危惧】

毎年のように調査地内で鳴き声の確認されており、本年も5,6,8月に鳴き声を確認した。

また、標識調査においても6月7日にメスと思われる成鳥個体1羽が捕獲された。標識調査での確認は初記録であった。

⑨アカショウビン *Halcyon coromanda* 【県：絶滅危惧Ⅱ類】

本種には照度やGPSデータを記録するデータロガーを装着しているが、本年はデータロガーの回収はできなかった。5～8月の基礎調査と重点調査において、ほぼ毎日鳴き声の確認され、標識調査においての捕獲数は3羽であった。

⑩サンショウクイ *Pericrocotus divaricatus* 【国：絶滅危惧Ⅱ類、県：情報不足】

本種は5～8月の基礎調査と重点調査において、ほぼ毎日調査地内全域で複数個体の鳴き声の確認された。

⑪サンコウチョウ *Terpsiphone atrocaudata* 【県：情報不足】

本種は5、6月の重点調査でさえずりが確認され、標識調査においても5、6、7月に各1羽ずつ成鳥メス個体が捕獲された。5月17日のメスは未発達ながら抱卵斑が確認された。6月7日のメス個体にもやや発達した抱卵斑が確認された。7月26日のメス個体においては、発達した抱卵斑が確認された。

⑫コルリ *Luscinia cyane* 【県：情報不足】

本種は8月の重点調査と標識調査において確認された。重点調査では鳴き声ではなく、道路脇で採食する姿が観察された。標識調査では4羽が捕獲され、成鳥オスが1羽、幼鳥の第1回冬羽オスが3羽であった。

⑬コサメビタキ *Muscicapa dauurica* 【県：情報不足】

4、5月の基礎調査および5、6月の重点調査でさえずりや姿が確認された。本種は2011年の重点調査において抱卵が確認されているが(2013, 星野ら)、本年は、営巣の確認はできなかった。

謝 辞

本年度の標識調査にあたっては、環境省標識調査員の安藤温子、市橋直規、勝野史雄、古園由香、小西広視、小林徹、鈴木仁、鳴海末信、深谷治、森茂晃（五十音順）および山階鳥類研究所元職員の米田重玄の各氏にご助力いただいた。また、三瓶自然館インタープリターの岩谷由美子、中田朋子両氏には標識調査の際に作業補助等のご協力をいただいた。土地および施設所有者である島根県（自然環境課）には施設利用に関してご配慮をいただいた。また地域のみなさまには様々な面で応援をいただいた。この場をかりて心よりお礼申し上げます。また、アカショウビンのデータロガー装着に関する研究は（公財）山階鳥類研究所の仲村昇氏との共同調査で実施した。

引用文献

- 星野由美子・市橋直規・中森純也（2010）ふれあいの里奥出雲公園の鳥類相（中間報告），島根県立三瓶自然館研究報告8: 33-39.
- 星野由美子・市橋直規・中森純也（2013）ふれあいの里奥出雲公園の鳥類相，島根県立三瓶自然館研究報告11: 21-30.
- 環境省（2020）環境省レッドリスト2020鳥類，環境省，東京
- 叶内拓哉（2020）フィールド図鑑日本の野鳥第2版，文一総合出版，431pp, 東京
- 日本鳥学会（2000）日本鳥類目録改訂第6版，日本鳥学会，345pp, 東京
- 日本野鳥の会島根県支部（1997）しまねの鳥，日本野鳥の会島根県支部，184pp, 島根
- 島根県（2014）改訂しまねレッドデータブック，島根県，島根